

# ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局  
VOL71 平成26年11月

医療法人社団 まほし真星病院  
理事長・院長 大石 麻利子 先生

公立八鹿病院  
救急科・総合診療科 部長 倉橋 卓男先生



医療法人・社会福祉法人真誠会  
理事長 小田 貢

医療法人相生会 にしくまもと病院  
病院長 林 茂 先生

医療法人・社会福祉法人真誠会  
常務理事 小田 蓉子

## ホスピタウンの仲間たち 第18回ホスピタウン交流会 神戸で開催

ホスピタウン交流会は、ホスピタウンの仲間、鳥取：医療法人・社会福祉法人真誠会、熊本：にしくまもと病院、神戸：真星病院、個人参加：倉橋卓男先生で約18年前から開催されています。第1回は平成8年に米子ホスピタウンで開催され、その後は輪番制で熊本、神戸のホスピタウンの仲間の地で開催しています。

本年は11月1日に第18回ホスピタウン交流会が神戸の真星病院で開催されました。にしくまもと病院から林病院長、スタッフ3人、真誠会から小田貢理事長、小田蓉子常務理事、スタッフ4名が参加しました。

第一部として、3つの施設の若いスタッフ同士による『地域包括ケアシステムと在宅医療について』をメインテーマとした意見交換が行われ、これからの包括ケアの方針について熱心に討議されました。

第二部は真誠会小田理事長による講演「日野原先生の跡を歩んだ19年 ～私は何を学び何ができたか～」がありました。

小田理事長は、聖路加国際メディカルセンター理事長で、医療法人真誠会名誉理事長である日野原重明先生との出会いから現在に至るまでについて、そして日野原先生から今まで学んだ沢山の言葉、名言、格言を紹介するとともに、これらの言葉集を参加者にプレゼントしました。

また小田理事長は真誠会での地域医療の取り組み、これからの地域包括ケア、地域の生活支援、地域住民活動への支援、認知症オレンジカフェの活動、鳥取県助け愛事業の促進など、これから変貌して行く高齢化社会への取り組みについて話をしました。

夜は神戸市内のホテルで林茂先生（にしくまもと病院 病院長）、大石麻利子先生（真星病院病院長）、倉橋卓男先生（公立八鹿病院 救急科・総合診療科 部長）、小田貢理事長、小田蓉子常務理事の5人でお互いの夢、悩みについてざっくばらんな話で盛り上がりました。

これからもこれらの病院、施設はお互いに切磋琢磨してそれぞれの地元でさら進化した地域医療活動を展開することになるでしょう。

### 平成26年度鳥取県原子力防災訓練〔避難行動要支援者避難訓練〕を実施しました。

平成 26 年 10 月 18 日(土)、島根原子力発電所にて事故発生の想定のもと、鳥取県原子力防災訓練が行われました。真誠会セントラルクリニックを訓練医療機関の対象として、入院中の透析患者を鳥取市の県立中央病院まで搬送を行う避難訓練を実施しました。

避難訓練には、行政(鳥取県、米子市)、消防局、自衛隊、医療機関(県立中央病院、真誠会セントラルクリニック)が参加し、各機関が情報交換し、連携しながら避難計画に沿って避難訓練を行いました。

避難訓練を実施し、医療機関として、災害時における入院患者の安全の確保、安全な避難の実施、行政からの情報収集や連絡調整のあり方などの課題について、今後検討を行い、取り組みを行っていきます。

#### 訓練の想定

平成26年10月18日に島根原子力発電所での発災において、米子市内に所在する医療機関の入院患者に対して避難指示が発出された。真誠会セントラルクリニックの透析入院患者について、鳥取県東部の病院へ入院患者避難の受け入れ調整が完了したことから、その容態悪化をさけるため、鳥取市の県立中央病院への搬送を行う。

#### 避難訓練の内容

##### 【事故発生 1 日目、2 日目】

事故発生から避難までは、対策本部立ち上げとともに、医療機関での実施事項の想定に沿い、入院患者の避難の検討、避難時の持ち出し品の準備、病室内の環境整備等を行いました。

##### 【事故発生 3 日目 避難の実施】

1. 米子市より、入院中の透析患者を鳥取市の県立中央病院へ避難させるよう指示がありました。連絡を受けた真誠会対策本部より、真誠会セントラルクリニックへ避難準備の指示がありました。



対策本部は、医療救護対策支部(県)や県立中央病院と連携を図るとともに、避難状況を把握します。



2. 真誠会セントラルクリニックでは入院患者の避難準備を行いました。



真誠会セントラルクリニックでは、避難する入院患者の持ち出し物品の準備、避難誘導を行います。

3. 避難車両(救急車)の到着時刻にあわせ、入院患者の避難誘導を行いました。



避難のときには放射線防護のため、  
・入院患者はマスク・シーツで体を覆います。  
・避難支援者はカッパ、軍手、マスクを着用します。

4. 避難車両(救急車)にて航空自衛隊美保基地へ搬送しました。



職員と救急隊員、自衛隊員が協力し、入院患者を救急車およびC-1輸送機にて搬送しました。消防局、自衛隊とも共同して訓練を行うことで、災害時の連携について検討を行うことができました。  
※救急隊員の方は放射線防護用服を着用しています。

5. 航空自衛隊美保基地から C-1 輸送機にて鳥取空港へ搬送しました。



6. 鳥取空港から救急車にて県立中央病院へ搬送し、入院後治療を継続しました。



## 避難が必要となったら

- ①正しい情報を入手しましょう  
県・市からテレビ、ラジオ、防災行政無線、広報車などの手段により避難指示が発令されます。
- ②ビニールカッパ等を着用しましょう  
身体の表面の汚染を防ぐため、フード付きのビニールカッパ、ジャンパー等を着用する等の防護対策をとりましょう。
- ③マスクをして内部被ばくを防ぎましょう  
マスクをしたり、水で濡らして固くしぼったハンカチやタオルで口や鼻を覆いましょう。
- ④マイカーやバス等で避難しましょう  
マイカーによる避難のほか、一時集結所に集合し、バス等で避難しましょう。また、避難の際は、近所に声かけしましょう。



## 弓浜ホスピタウンに原子力災害避難施設整備

米子市大崎の弓浜ホスピタウンは、島根原子力発電所から半径25キロの圏内に入っています。真誠会は、原子力災害発生時に、すぐに退避することが困難な要援護者や住民の皆様が一時的に避難していただける退避施設を弓浜ホスピタウン内に整備します。

10月から、鳥取県の補助金を受けて米子市内では初めての整備工事を行っています。工事の範囲は、弓浜ホスピタウン3階の老人保健施設弓浜ゆうとびあ全体と、1階ホールのエレベーター前から職員通用口までです。

建物の外壁や窓、設備開口部などの気密性を高めるとともに浄化システムを設置します。浄化システムによって安全なレベルまで放射性物質が除去された空気而建物内部を満たし、建物内部の気圧を外部気圧より高めることによって、外気からの放射性物質の侵入を防ぎ室内の環境を維持します。

また、職員通用口には、外から建物内部に入る際に放射性物質を除去するエアシャワーを設置するほか、設備の機能を維持するための自家発電機などの設備も設置します。

簡単に言いますと、弓浜ホスピタウン3階をほぼ密閉状態にして、そこにきれいな空気を流し込んで常に放射性物質のない空気を満たすのです。この装置でとりあえず1週間はここで安全に生活することができ、この間に避難されている人たちを少しずつ安全な地域へ移送します。

同様の設備は、鳥取県内では済生会境港総合病院に設置されています。

工事は来年2月に終わる予定です。工事期間中は利用者様、ご家族様に迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



「職員通用口に設置するエアシャワー」  
(外から建物内部に入る際に放射性物質を除去します)

## 外浜ホスピタウン 弓浜支え愛センター 10月末に完成

現在、米子市和田町(複合型サービス真誠会ふる里、グループホーム椿庵・桜庵の同一敷地内)に住民の助け合いの拠点、地域での助け合い活動を啓発、推進、実践することを目的とした事業を展開するため、鳥取県の「平成26年度とっとり支え愛活動支援補助金」を得て、『弓浜支え愛センター』を建設しています。

事業の内容としては、弓浜6校区に加茂校区、河崎校区を加えた8校区により、社会福祉協議会、民生児童委員、ボランティア団体、認知症サポーターなどを中心とした運営委員会をつくり、各地区におけるボランティア活動、安否確認、米子市が実施する介護支援ボランティア活動、オレンジカフェ活動の推進などを行いたいと考えております。助け合い、支え愛の趣旨にあった各種団体が単独で若しくは協働で弓浜支え愛センターを事務局、研修の場としてご活用していただければと思います。

日常的には、地域の住民を対象としたオレンジカフェ、住民の趣味の作品等の展示をしたり、ギャラリーとして場所を提供する予定です。

<p>至境港</p> <p>市道外浜街道線</p> <p>至米子</p> <p>外浜ホスピタウン</p> <p>弓浜支え愛センター 和田ふる里オレンジカフェ (米子市和田町1722番地)</p> <p>複合型サービス ふる里</p> <p>グループホーム 椿庵・桜庵</p>	<h3>弓浜支え愛センター</h3> <p>ボランティア事務局 オレンジカフェ 地域相談窓口</p> <p>平成26年度 とっとり支え愛活動支援補助金 対象事業</p> <p>オレンジカフェ: 主として認知症に係る活動の拠点 支え愛拠点事業: ボランティアの事務局や、地域の子どもから高齢者までの相談窓口としての機能の拠点 ※鳥取県西部の支え愛のネットワークを作りたい。</p>
---	---

# 日韓交流 施設見学・意見交換会

## ● 騷州市の老人福祉館と米子市の真誠会 ●

韓国京畿道騷州市の「老人福祉館」（呉順煥館長）の一行15人が9月17日、医療法人・社会福祉法人「真誠会」を施設見学のため来院されました。

一行は、ホスピタウンの事業紹介のビデオを見た後、ホスピタウンの医療施設や介護老人保健施設、通所施設などを熱心に見学されました。なかでも、通所リハビリテーション真誠会を見学された際は、通所者と一緒に「アリラン」を歌い、双方の女性が抱き合う一幕もあり、職員も感激しました。

施設見学の後は、韓国でも高齢化が加速しており、共通課題である高齢者福祉の向上について意見交換会を行いました。

意見交換会では、真誠会の事業紹介のビデオを見た感想として、小田理事長がクリニックの廻診で、寝たきりの患者さんの手を握って話し掛け元気づける場面を目にして「患者に笑顔が戻ったことに心から感激した」との声が多数あがりました。また、治療後も在宅療養を支援する取り組みに感銘を受けたことなどの感想が語られました。認知症の予防、治療についても、来訪者は興味をもたれていました。

真誠会の特に保健・医療・介護の総合的な事業展開や「患者の心を理解し、支える」医療の姿勢に注目し、呉館長は「深い感銘を受けました。母国の福祉向上に生かしたいです」と感想を話されました。

最後に、小田理事長から、「高齢者福祉の従事者同士による濃密な交流となり良い機会をいただきました。日韓関係は政治的には緊張しているが、このような交流の積み重ねが関係改善への石垣の一つになるのではないかと思います」と話し握手を交わし、職員一同笑顔で手を振りお見送りをしました。



意見交換会では、韓国も日本も同じように高齢化問題の悩みを共有でき、質問が飛び交いました



京畿道騷州市老人福祉館と真誠会の文化交流

## 第25回全国介護老人保健施設大会岩手

平成 26 年 10 月 15 日（水）～ 17 日（金）に開催された「第 25 回全国介護老人保健施設大会岩手」に真誠会から 4 名が参加しました。今回のテーマは「雨ニモマケズ風ニモマケズ～震災を乗り越えて めざそう 夢のある老健を～」です。発表した内容の要旨を以下に紹介します。



<p>[管理・運営等]</p> <p><b>介護福祉施設の管理者育成にBSCを導入して —2年間のBSC展開に沿った育成取り組みとその成果—</b></p> <p>医療法人・社会福祉法人真誠会 看護介護統括部長 三ツ木育子</p>  <p>急速な高齢化に伴い介護福祉事業は拡大し、人材育成・確保が困難で、特に介護管理者の系統的育成計画も明確でない。当法人の 40 事業所の目標管理に BSC を導入する事で管理者育成と事業目標達成に繋げることが出来た。</p>	<p>[管理・運営等]</p> <p><b>通所系サービスの送迎業務改善にBSCを導入して —運行ミーティングの取り組みと成果—</b></p> <p>医療法人・社会福祉法人真誠会 副看護部長代理 佐平登志美</p>  <p>過去に大きな交通事故の経験持つ当法人は、安全で安心な送迎業務を確立することが最重要課題であった。13ヶ所の通所系事業所で BSC 手法を用いて運行ミーティングを実践し、各段に成果を得たので報告する。</p>
<p>[医師と医療、医療と看護介護]</p> <p><b>老健入所死亡例について —看取りケア性差を中心に検討—</b></p> <p>介護老人保健施設ゆうとびあ 看護師長 河本久美子</p>  <p>老健における終末期医療・ケアにも変化が見られ、老健での後期高齢者の死亡例が増加している。性差では各年代で男性の死亡頻度が高い。死因は女性では老衰が多く男性で肺炎・心不全・透析関連が多かった。</p>	<p>[排泄]</p> <p><b>施設入所経管栄養者に対する排便ケアと 介護負担の検討</b></p> <p>介護老人保健施設ゆうとびあ 介護福祉士 谷口辰朗</p>  <p>老健施設入所者のうち経管栄養例では排便管理が困難な方が多い。当施設の経管栄養例に対して、プリストル排便スケール、排便の処置方法、排便介護負担について調査し、介助者共に負担が軽減したのでここに報告する。</p>

# がん緩和ケア研修に参加して



医師の立場から

## ファミリーホスピス真誠会

真誠会セントラルクリニック 院長 小田 貢

鳥取県西部地区には鳥取大学医学部附属病院をはじめ、がんやターミナルの患者さんを診る病院や施設が複数あります。このたび米子医療センターに緩和ケア病棟ができましたので、この地区でのターミナルケア、ホスピスケアがより一層充実して行くものと期待しております。

さて、真誠会は約 20 年前からターミナルの患者さんを診ていますが、ここ 10 年間は 19 床のうち 4 から 5 床はコンスタントにターミナルの患者さんのホスピスケアを行っています。大きな病院があるから私たちのような小さい規模の医院（クリニック）はターミナルの患者さんを診なくてもよいというものではなく、小さい規模の医院はそれなりに、この地区のターミナルケアの一翼を担う必要があると感じています。

すなわち、ターミナルの患者さん、ホスピスケアを必要とする患者さんはそれぞれ広い範囲のバリエーションがあり、大学病院が適している方、緩和ケア病棟が適している方、そして真誠会のような小規模で家庭的な環境での、いわゆるファミリーホスピスが適している方があると思います。

また真誠会では訪問看護でも、施設でも継続的にホスピスケアを行っています。

このような状態に対して少しでも質の高いホスピスケアを行うために真誠会では厚生労働省が指定している PEACE「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」に現時点で、医師 2 名、薬剤師 2 名、看護師 5 名が研修を修了しています。

今後も引き続きさらに 10 人くらいは、この研修を受けて、家庭的な優しさのなかに質の高いホスピスケアが提供できるようにしたいと思っております。

看護師の立場から

真誠会セントラルクリニック 看護師 中井基行・西山美和・池田美織

緩和ケアは「患者さんの苦痛の訴えを信じる」事が大切です。緩和ケアとは、痛みやその他の身体的苦痛、心理的苦痛、社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し的確なアセスメントと対処を行うことです。また、苦痛を予防し和らげることはクオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチであると言われております。最近ではがん患者が増加しており、当院にもターミナル・骨折・带状疱疹などで疼痛を持っておられる患者さんが入院して来られます。今回の研修で『いつでも・どこでも質の高い緩和ケアを受ける』為には、医師だけでなく看護師も緩和ケアの基本的な知識を習得していることが重要です。

今後、メンバーへの知識と情報の共有によりチームでのケアを提供していきます。また事例検討を繰り返して学び、知識を積み重ねていくことが重要であり、事例検討から自己研鑽に努め改善に結びつけ質の高い看護を提供していきます。当院で活用できる疼痛評価表を作成し患者さんの苦痛を把握して看護に活かします。様々な苦痛の緩和、更にはクオリティ・オブ・ライフを改善する看護が提供出来るように研修成果を発揮したいと思っております。

訪問看護の立場から

訪問看護ステーションネットケア 副看護師長 神田典枝

在宅で療養生活を希望している利用者の中には緩和ケアを必要とされている方もあり、在宅緩和ケアの必要性が増しています。

緩和ケアは「いつでも、どこでも切れ目のない質の高いケアを受けられることが大切である」と言われています。入院から在宅へ継続して緩和ケアを受けることができ、利用者・家族様が安心して在宅で過ごせるように多職種との連携、協働というチームで関わることの重要性について再認識しました。

また利用者・家族様によって「何を大切にしたいか」「何を重要に考えているか」は異なっています。住み慣れた家で最後まで生活をするために利用者・家族様の思いに寄り添い、支えることができる看護を行っていきたくと考えます。

薬剤師の立場から

真誠会セントラルクリニック 薬剤師科長 木村幸美

今回の研修会では、がん性疼痛に関して単に薬剤による痛みのコントロールを行う知識だけではなく、緩和ケアチームの一員として必要な多くの事柄を医師・看護師と共にロールプレイなどを通じて学ぶことが出来ました。

臨床の現場で求められる薬物療法としては、痛みの特性に応じた薬剤の選択・組み合わせ・投与量の計算、オピオイドローテーション、吐き気・便秘等の副作用の防止、気持ちのつらさやせん妄など精神症状、呼吸苦への対応など、患者様の刻々と変化していく状況への対応などオーダーメイドな選択・調整が必要とされています。

緩和ケアにおいて薬は大切な役割がありますが、単に薬を投与するだけでは患者様の苦しみを和らげることは出来ません。多職種協働での様々な視点での治療参画が非常に重要です。真誠会では従来から、各専門スタッフ（医師・看護師・栄養師など）・患者様とのタイムリーな情報交換・連携が大切にされてきました。今回、多職種で共に研修を受けたことにより、よりきめ細やかで患者様・ご家族様に満足していただける「真誠会版ホスピスケア」が充実していくと確信しています。チームの皆と共に具体的に貢献できる薬剤師として今後も研鑽を積んでゆきたいと思っております。

## 体験訪問 リハビリを導入

在宅復帰に向けた支援の  
取り組みが進んでいます

当事業所は、「体験訪問リハビリ」を導入しています。体験訪問リハビリとは、退院前の外出外泊時に、実際に利用者（患者）様のご自宅に訪問リハビリ職員が訪問し、在宅復帰後に必要と思われる訪問リハビリの内容を実際に体験していただく事で、スムーズに在宅復帰に繋がるように取り組んでいます。また、体験訪問リハビリ時の様子を担当ケアマネ及び施設や病院に情報提供することで、退所（院）計画及び居宅サービス計画書作成に少しでも協力が出来ると思います。

また、在宅ケアマネの居宅サービス計画書作成のために、身体環境評価のみの関わりもさせていただきます。今後とも在宅生活継続のために全力を尽くして参ります。

近年、病院又は老人保健施設などから在宅復帰への流れが強くなってきています。その中で、当訪問リハビリゆうとびあとして在宅生活が安全に送る事が出来るために実際の生活場面での動作指導・介助方法の助言・本人の動きに合った環境設定・外出動作の確保・趣味活動の支援など、実際の生活場面の中で行っております。しかし施設・病院から在宅復帰される場合「訪問リハビリって、何をしてくれるのかな?」「どんな人が家に来るのかな?」等、様々な不安な気持ちもあります。

そこで、



私たちが訪問リハビリに  
伺います。

問合せ先：訪問リハビリテーションゆうとびあ 担当 大西 TEL:0859-30-3110

## おかげさまで

米子中央ホスピタウン

サービス付き高齢者向け住宅『真誠会セントラルレジデンス』開設1周年  
リハビリ強化型通所介護『真誠会セントラルローズガーデン』開設3周年

～選ばれる施設を目指して～

米子中央ホスピタウン（米子市西福原）は、『サービス付き高齢者向け住宅 真誠会セントラルレジデンス』が開設1周年、同一敷地内の『リハビリ強化型通所介護 真誠会セントラルローズガーデン』が開設3周年を迎えることができました。これも日頃より皆様のご協力・ご尽力を頂きましたことと心より感謝申し上げます。

『真誠会セントラルレジデンス』は、入居者様に安否確認と生活相談、24時間の緊急対応など行っております。特徴として体調の変化により介護・看護が必要となった場合でも、主治医をはじめ看護師、介護福祉士、介護支援専門員等の多職種が連携し、ご希望に沿えるような生活の場を提供しています。また、終の棲家として最期まで安心して暮らして頂けるような支援もさせていただきます。

今後も入居者様の思いを傾聴し、その方らしい生活の実現と県内外のご家族にも安心して頂けるようサービス提供いたします。

併設する『リハビリ強化型通所介護 真誠会セントラルローズガーデン』では、要支援・要介護・認知症に特化したサービスをご利用者の状態に応じて専門的に展開しています。いつまでも元気に！を目標にして、リハビリに重点をおいた『リハビリ強化型通所介護』として展開しています。あらゆる専門職が在籍し、専門的な支援をさせていただきます。また居宅介護支援事業所も併設しており、介護支援専門員が生活に関するあらゆるご相談を承っております。

また、地域の方にいつまでも健康で過ごして頂きたいと会員制の『健康クラブ』も行っております。

私たちはいつまでも元気で喜びのあるこれからの生活を、個人の目標達成に向けた支援を米子中央ホスピタウンで提供させて頂きたいと思っております。

今後も変わらぬご支援を頂きますよう宜しくお願い申し上げます。



真誠会セントラルレジデンス



真誠会セントラルローズガーデン

## 介護従事者が日頃培った介護の技術を競う 「第5回オールジャパンケアコンテスト」にて表彰される

平成 26 年 10 月 18 日に「第 5 回オールジャパンケアコンテスト」が米子コンベンションセンターで開催されました。コンテストは、6 分野「認知症」「食事」「看取り」「口腔ケア」「入浴」「排泄」を、経験年数による 2 部門 (A 部門 :5 年以上、B 部門 :5 年未満) に分けて行われました。全国から 119 名の選手が参加し、真誠会も全分野に 8 名がエントリーし、日頃培ったケア、技術、知識を披露しました。

今後も現場においても質の高いケアを目指していききたいと思います。コンテスト結果の発表があり、この度、真誠会から以下の 2 名が表彰されました。



★奨励賞★  
【入浴分野】A 部門  
**深田 昌宏**  
通所リハビリテーションゆうとびあ  
介護福祉士



★優秀賞★  
【口腔ケア分野】A 部門  
**柏木 直樹**  
介護老人福祉施設ピースポート  
介護福祉士

## 新たに2つの委員会発足

次世代を担う医療・介護人材の教育環境を整える為と、職員の倫理観を醸成して、心に響くケアが提供出来るように、平成 26 年度から、新たに 2 つの委員会が発足しました。

### <臨地実習検討委員会>

臨地実習検討委員会は、『地域医療、介護を支える各専門職の後継者を育成するための臨地実習環境や育成プログラムを検討・改善する』を目的に、平成 26 年度より活動しています。

当法人は、介護の養成校を始め、看護学校、リハビリ、鳥取大学医学部等の実習を毎年多数受け入れており、介護では介護福祉士実習指導者講習を受けた職員を各事業所に配置し学生指導にあたっています。

現在、サービスの担い手不足が問題視されている中、医療・福祉の質の向上、またサービスが必要な方々が安心してサービスを受けることができるよう、現場で働く人々の資質の向上が、これまで以上に重要な課題となっており、量と質両面の人材の養成が緊急の課題となっています。

今年度の目標は、『各専門職の実習受け入れ状況の把握』、『実習環境の適正化を図る』、『各専門職の実習指導(教育プログラム)を検討する』の 3 つを柱に、充実した実習指導やより良い実習環境の構築に向け取り組んでいきたいと思ひます。

### <倫理委員会>

今年度より倫理委員会は、13 人のメンバーで、右のように目的・目標を立案し、活動を行っています。

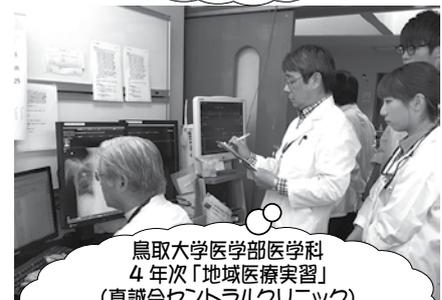
まずは、研究及び電子化による情報の取り扱いに関する、倫理規定を策定し、研究・電子化の個人情報に関するの審査チェックを開始出来るように取り組みます。

また、介護現場における倫理観醸成の為に、医療・介護事例などの検討会に取り組みます。

始まったばかりの委員会ですが、提供する介護サービスの質の更なる向上を目指します。



YMCA 米子医療福祉専門学校  
(介護老人保健施設ゆうとびあ)  
施設で入所者の特徴について、  
コミュニケーションの図り方、  
交流(話し相手)を学びました



鳥取大学医学部医学科  
4 年次「地域医療実習」  
(真誠会セントラルクリニック)  
チームで行う回診風景  
電子カルテの画像診断を真剣な眼差しで  
学ぶ学生達

### 目 的

- 1) 「患者・利用者の人権を守る、あるべき医療・介護の姿をめざす」
- 2) 「医療・介護現場で起こる様々な倫理的な問題に対し、職業の倫理観を醸成する」

### 今年度の目標

- ① 各専門職団体の職業倫理について理解する事ができる。
- ② 患者(利用者) の人権尊重された医療・介護が提供できる。
- ③ 臨床研究についての倫理的妥当性について判断を行うことができる。
- ④ 個人情報電子化の中で、参照などに対する倫理観チェックのシステムを作ることができる。

## 初めてのドイツ見聞録～在独日本の方々と高齢対策で交流～

看護介護統括部長

三ツ木育子

介護老人福祉施設ピースポート看護師長

小徳美千子

ひよんな事から、小徳と三ツ木はドイツを旅することになりました。二人の古い知人の娘さんが、ドイツで医療・介護の仕事に携わっておられ、帰省時に日本の高齢者医療福祉の実態を知りたいと望まれ、真誠会の事業展開と施設を見学されました。別れ際に「ドイツの高齢者対策も見に来て下さいね」とお声掛けがあり、私たちは何の考えもなく笑顔で大きくうなずきました。それから6ヶ月後、3月11日、知人ご夫妻と共に、早春の関西空港からフランクフルト経由で12時間、娘さんの住むデュッセルドルフ空港に到着しました。空港には娘さん夫妻が迎えて下さり、ご自宅のある街の小さなホテルに着きました。そのホテルの2階を拠点に桜が満開のドイツを楽しみました。翌日から、紹介して頂いた2つの老人施設を見学しました。

1つは「Rosenhof ローゼンホフ」という、ドイツ国内に10数箇所の施設を運営する、大きな敷地の木々に囲まれた明るい色彩の高級な施設でした。管理女性は前に日本でお仕事をしていたとの事で、とても親日的で丁寧な説明を受けました。広いロビーにレストラン風の食堂、図書室、プール、球技室等々、ゆったりと豪華な作りで、個室は一番狭くて40㎡、広いところは120㎡、各々にベランダが付いていました。ベッドやソファの色は明るく、老人施設の個室とはとても思えませんでした。

もう1つは「Diakonie ディアコニイ」という、協会の寄付や色々な支援で経営している施設でした。自立棟と介護棟があり、介護棟には看護師も勤務していました。介護職員も明るい上着に白いパンツ姿で、こぼれんばかりの笑顔で迎えて下さいました。廊下には所々に座れるように腰掛が用意され、部屋の入り口は覚えやすいように、絵や花で飾ってありました。やはり古い調度品や人形が置いてあり、これも回想法なのでしょうか。浴室は上を向いて入浴介助してもらわれるのでしょうか、天井に飾り物がありました。両施設とも掲示板に沢山のイベント案内がありました。ドイツ人は旅行が好きで、施設が企画した家族旅行が、とても好評で希望者が多いそうです。

次に、この旅行の目的の一つである在独日本人の方々に真誠会(日本)の高齢者対策を紹介するイベントに参加しました。娘さんが事前にデュッセルドルフ在住の日本人会「竹の会」のメンバーやドイツ国内に在住のメンバーに声を掛けて下さっていて、50名程の方々が集まっておられました。定例会の研修会企画としてお招きいただき、私達が到着した時は「花は咲く」と「ふるさと」を合唱しておられました。真誠会でも馴染みの歌で、時空を越えて繋がっているような、懐かしい気持ちになりました。拍手に迎えられて、世界に先駆けて超高齢社会を迎える日本の医療・福祉の取組みや国の施策に先んじて真誠会が行っているホスピタウン計画や、介護予防から看取りまで、両法人の取組みについてパワーポイントを用いて紹介させて頂きました。講演後、個別に色々な質問を頂き、改めて関心の深さに驚かされました。その後、日本から持参した嚙下食や軟菜、トロミ等の試食会を行いました。軟らかい漬物や煮物等、日本の味を思い出し懐かしいと好評で小徳さんは大忙しでした。

翌日から、二人は日本語通訳の方と1泊2日の国内旅行に出発しました。ドイツ中世期から歴史とロマン一杯の古城巡りやワインを飲みながらのラインクルーズを楽しみました。お伝えしたい事は山ほどですが、紙面限界となりました。またの機会に・・・。



真誠会の取組み紹介

ドイツ伝統の  
三角木組建築の前で

## 国内初! 『そこにある美術～アール・ブリュット展～』 真誠会ボランティア「希望」が参加

「あいサポート・アートとっとりフェスタ」「障がいを知り、共に生きる」を大会テーマとして、美術・文芸作品の展示、音楽、演劇、ダンスなど、障がいのあるなしにかかわらず、誰もが参加し、楽しみ、感動を共有することのできる心温まる大会が県内で開催されました。その一環で、障がい者の方々を描いた美術作品を展示する「アール・ブリュット展」(厚労省、鳥取県、鳥取市主催)が9月6日より米子市美術館で開催しました。真誠会からボランティア「希望」のスタッフ約20名が交代で、美術館を訪れる方々のサポート、交通案内・誘導、美術館の監視などの活動を行いました。



美術館には、県内外の作家34人の作品713点が展示されています。作品の中には、段ボールを使用した色鮮やかな作品や、作者の心の中の声がリアルに表現されており、いっさい下書きせずに作品を仕上げていると説明を聞き、パワーとエネルギーを感じ取りました。まさに「生」の芸術でした。

福祉に携わるスタッフとして、今後もボランティア活動を継続していきます。

※アール・ブリュットはフランス語で「生(き)の芸術」の意。美術の専門教育を受けていない人が、伝統や流行に左右されず感性のままに表現する創作活動を指す。



## 「米子市介護支援ボランティア」の受入れを積極的に行っています

真誠会では、米子市から依頼があり、「米子市介護支援ボランティア」の受け入れを行っています。

【介護支援ボランティア制度とは…】

ボランティア登録をしている65歳以上の高齢者(要支援・要介護認定のない方)が、ボランティア活動の登録施設・事業所等で行ったボランティア活動に対して、実績を勘案してポイントを付与し、その高齢者の申出により、当該ポイントを換金する制度です。ボランティアを1時間することで1ポイントが付与され、1日2ポイントが上限です。

貯まったポイントは、その高齢者の申出により、50ポイントを上限とし換金することで、実質的に介護保険料の支払いに充てることができる仕組みです。

この制度をご存じない方も多いので、是非この機会に登録していただき、ボランティアをすることで、新たな「生きがい」「やりがい」を見つけていただければと思います。当施設でのボランティア内容はオレンジカフェのみでなく、対外的イベントの手伝いや、傾聴ボランティア、花の植替え作業等、ボランティア内容を限定せず申請登録するよう進めています。

田邊自治連合会長様、民生委員・大前様と、常に連絡を取り合っており、様々な調整や打合せを行なっています。

現在、和田地区(一部富益地区を含む)の登録数は、25名です。市の登録の約60%を占めています。

介護支援ボランティアの皆さんは、とても「やりがい感」を持たれて活動され、笑顔の表情で話されていることがとても印象的です。



標準的な流れ	1. ボランティア登録	(管理機関(米子市ボランティアセンター)でボランティア登録。ボランティア手帳を受け取り)
	2. ボランティア活動	(ボランティアの受け入れ先として登録されている施設等で、ボランティア活動を行う)
	3. ポイントの付与	(活動後、実績に応じて手帳にスタンプを押していただく)
	4. 集めたスタンプを評価ポイントに変える申請	(手帳を米子市ボランティアセンターに提示し、評価ポイントの交換(換金))
	5. ポイントに応じた金額が振り込み	(評価ポイント数に応じて現金が指定された金融機関の口座に振り込み)
	6. 介護保険料の納付	(ボランティア活動で得た金額を活用して、実質的に介護保険料との一部相殺が可能)

# 辻田耳鼻咽喉科

## ドイツ紀行



辻田耳鼻咽喉科  
院長 辻田 哲朗

今年は9月の連休を利用して職員を連れて初めてのドイツに行ってきました。今回は鉄道や船そして路線バスなどを駆使してドイツを縦断する旅になりました。旅の初めはまずフランクフルト空港に降り立ちそこから列車を利用してライン川まで行きライン川クルーズを楽しみ、それからこれまた列車を乗り継いでロマンティック街道にあるローテンブルグと言う小さな街まで行き、それから今度はバスを使って南下してアルプスの麓のホテルに泊まり、最後にミュンヘンでビールを堪能して帰って来ると言う毎度々々ハードスケジュールをこなして流石に疲れしました。

ボクのドイツの印象です。まずドイツ人はとてもフレンドリーでした。言っちゃなんですが、パリのフランス人はどこか日本人を始め観光客を上から目線で見ていました。パリには世界中から観光客がやって来るので、自然と尊大な態度になるのもわかるんですが、「見せてやるぞ」が見え隠れしていました。そしてイタリア人は人なつっこいのはいいのですが、ちょっと物騒でローマを歩いてても道行く人がみんなスリに見えて仕方がなかったのです。ところがドイツ人は違ってました。どこに行ってもボクたち日本人に普通に接してくれました。言葉が違うだけでまるで日本のどこかの観光地に行った時と同じ感覚でした。それとドイツは治安がとてもよかったです。怪しげな視線を感じることは一度もなかったですし、街はどこに行っても清潔でした。そしてまた、やっぱりドイツの交通機関はバスも鉄道も時間に正確でした。フランス人よりもイタリア人よりもドイツ人に一番親近感を覚えました。また、行きたいなあ。



ローテンブルクの街にて



# いえはら歯科

## 2014 秋



いえはら歯科  
院長 家原 猛

先日の9月の連休、幸運にも北海道(札幌市周辺)を訪ねる機会に恵まれた。札幌の大通公園では丁度「食の祭典 オータムフェスタ」が開催中であった。ある医療研究フォーラムに参加するのが目的だった。そして中でも興味を持った市民公開のシンポジウムが「食の安全は命の安心」であった。シンポジストは基調講演として遺伝子組み換え、食品事故などの報道と真実について述べた科学ジャーナリスト、食育の意義と題して北海道での取り組みをリードした大学教授、食物アレルギーについて解説した専門医、噛んで食べることの大切さを訴えた歯学部教授の4名であった。最初に科学ジャーナリストによって行われた基調講演が衝撃的だった。先ず「食の安全を守る」の大きな変化として、20年前までは、製造する環境を衛生的にし、農薬や食品添加物、抗生物質等を使わなければ、安全な食品ができる。そのことを最終製品の抜き取り検査で確認する。ということでもよかったのかもしれないが、今日ではリスクアナリシスという考え方、リスク評価(食品安全委員会)、リスク管理(厚労省、農水省、消費者庁等)、リスクコミュニケーション(消費者、事業者など関係者が相互に理解、意見交換)で捉えられている。また「食品」というものが、多様な物質、未知の物質、微生物の塊であること。栄養成分や味、香りなどにかかわる物質、健康効果を持つかもしれないポリフェノールと言われるような成分、毒性物質、発がん性物質など未知の物質も多い、付着した微生物、付着したカビが作った毒性物質、加熱など製造調理の工程でできる物質(発がん物質も多い)そして残留農薬、食品添加物、放射性物質などである。また、植物も進化を続ける中で多くのストレスに耐え生き抜くために、体内に多様な構造の化学物質を作る力を得た。天然の毒性物質、微生物等はまだまだわからないことだらけ。このように食物が複雑化するなかで、「食の安全」とは、リスクを決めることで、なにを、どれだけの量食べるか? 食べないか? ということのようなのである。潔癖主義は通用しない。ただ、私などはスーパーなどでは妙なものがあまり入っていない物を選ぶようにはしている。

その他、遺伝子組み換えの技術が食物の他、その加工品、医薬品、食品添加物、洗剤など広く応用されている現実には驚き、もちろん怖くもあった。食糧必要量確保の観点や環境影響、経済性、栄養、文化、味、外見、道徳・倫理など多くの観点から食物を作る、食べるということには、俯瞰的、統合的な視座が必要なのだとの主張であった。

もう一つ、報道の問題。日本のメディアに触れ、メディア・バイアスからメディア・リテラシーの必要性を説き、適正な情報の集め方、努力を訴えていた。

今回私は食材、食の宝庫の北海道で、いい勉強と食の魅力をも十分に堪能させてもらった。ほんとうに充実した旅となった。

## 千枚七夕、仙台七夕 ～東北復興の祈りを込めて～

真誠会医院（現：真誠会セントラルクリニック）は開院当初より、クリニックの吹き抜けに近所から分けていただいた孟宗竹を使って大七夕飾りをしてきました。

七夕祭りは子どものころの楽しい思い出でありとても大切な心のよりどころです。

その七夕飾りも真誠会が大きくなり、一時的に数年間中断したことがありました。

しかしながら、昨年、東日本大震災から3年が経過し東日本の復興を祈って、短冊千枚に願い事を書いた千枚七夕を飾りました。とても見事な七夕飾りで感動的でした。

そして今年も更なる東日本の復興と、患者さんの回復を願って千枚七夕を飾りました。

また今年はそれに加えて、4つの派手な吹流しを飾りました。

この吹流しに関しては東北三大祭の一つである仙台七夕が有名です。その仙台七夕の吹流しを模した、七夕飾りです。

また、復興のために東北の皆さんが手作りして売られていた、つるし飾りも笹に飾りました。

※つるし飾りは、雛祭りの際に、糸の先に布製の人形などをつるして飾る伝統工芸の一種です。



つるし飾り

8月7日になれば孟宗竹の七夕の笹は流しますが、東北の犠牲者の方々、そして真誠会でお亡くなりになった皆様方の霊の慰めになればと思って祈りを込めて、吹流しはお盆まで飾りました。

## 弓浜ホスピタウン夏祭り 盛大に開催



「第15回弓浜ホスピタウン地域福祉交流夏祭り」が8月23日、米子市大崎の弓浜ホスピタウンで開かれ、入所者様や利用者様、ご家族、地域の皆様が来場され、歌や演奏、踊りなどのステージを楽しまれ、交流を深めました。

祭りは、勇壮な和田荒神こども太鼓による「お祭り太鼓」で開幕。職員による余芸や和田公民館ハーモニカ同好会、寺子屋サロン、さきつスミレ会など地域の皆様によるステージが繰り広げられました。

また、恒例のジュースやビール、かき氷、たこ焼き、ヨーヨー釣りなどの屋台やバザーも行われ、夏のひとときをご家族で楽しまれました。



職員が神輿を担いで  
練り歩き夏祭りの  
幕開け



入所者様や利用者様、  
ご家族様、地域の皆様で  
にぎわいました



華やかな踊りを  
披露される  
寺子屋サロンの皆様

理事長写真

金沢の冬景色

撮影/医療法人・社会福祉法人 真誠会 理事長 小田 貢



兼六園は、水戸の偕楽園、岡山の後楽園とともに、日本三名園の一つです。雪吊りされた唐崎松。雪をかぶった徹軒灯籠（ことじどうろう）。冬ならではの清らかな風景を、霞ヶ池が淡々と映し出し、「雪吊り」のライトアップはこの時期にしが見られない幻想的な美しさと雄大さが感じられます。

金沢の中心部、長町は、加賀藩の藩主が住んでいた武家屋敷が残っており、土塀が連なる古い町並みが観光スポットとなっています。冬の期間は、雪から土塀を保護するために薦掛け（こもがけ）が施され、金沢の冬の風物詩となっています。

おかげさまで8周年 地域交流・外浜ホスピタウンふる里まつり開催！！

ふる里まつりは、地域の皆さまとの合同企画により今年で8回目を迎えました。当日は、秋晴れの天候に恵まれ、祭り会場は 400 名余りの来場者で溢れんばかり。地元の和田荒神こども太鼓のオープニング演奏でスタート、各出店の紅白おにぎり、たこ焼き、ののこめし、白ネギ焼き鳥串、バザー等も長蛇の列で大賑わいでした。今年新たに、オレンジカフェ、綿作りプロジェクトの紹介コーナーを設けて、これまでの活動と作品展示を行ない、地域の皆様にも大好評でした。また、地域ステージでは、和田保育園・園児のかわいい妖怪体操や子ども会の踊り、地域有志の皆さんによる歌など多彩なステージで盛り上がりました。地域の皆様ご支援・ご協力ありがとうございました。



ふる里まつりのはじまり、はじまり～



挨拶 和田地区自治連合会 会長 田邊 忠雄 様 秋晴れて良い天気ですね。今日は、たくさん催しがあります。皆さん楽しんで行ってください。



オープニング 和田荒神こども太鼓 迫力ある演奏でした

立ち見ができるほど、多くの来場者がありました

ステージをよく見てください。実は、トラックなんです！地元の運送会社から協力していただきました。



医療法人・社会福祉法人真誠会 小田 理事長より開会挨拶。皆さん、これは何ですか？ これは、「和田でワザ菓子」です！



可愛い園児たちの踊り 妖怪体操 和田保育園

プログラム

- (オープニング)
- お祭り太鼓 和田荒神こども太鼓
- 挨拶 医療法人・社会福祉法人真誠会 理事長 小田 貢
- 挨拶 和田地区自治連合会 会長 田邊 忠雄 様
- 踊り 妖怪体操 和田保育園 様
- 踊り ブルーハワイ プアナニフラ 様
- 涙そうそう ふる里
- グループホーム椿庵・桜庵
- 歌 ころろ酒 松本 しみる 様
- 踊り 清水の女 若八重流美扇会 様
- 踊り 恋するフォーチュンクッキー WADAHAMA7・やんちゃごす
- 踊り 残侠子守唄 若八重流美扇会 様
- 歌 雪の渡り鳥 鎌田 節夫 様
- 歌 秋津島 安田 悟朗 様
- 踊り 美保の恋唄 岩田 八千代 様
- 踊り 男同志 若八重流美扇会 様
- 歌 みちづれ 高崎 倅一 様
- 歌 浪花節だよ人生は 藤澤 孝幸 様
- 踊り 大利根月夜 安達 ぬき子 様
- 踊り 古城 和田公民館舞踊同好会 様
- お礼挨拶 矢倉 玲二 様